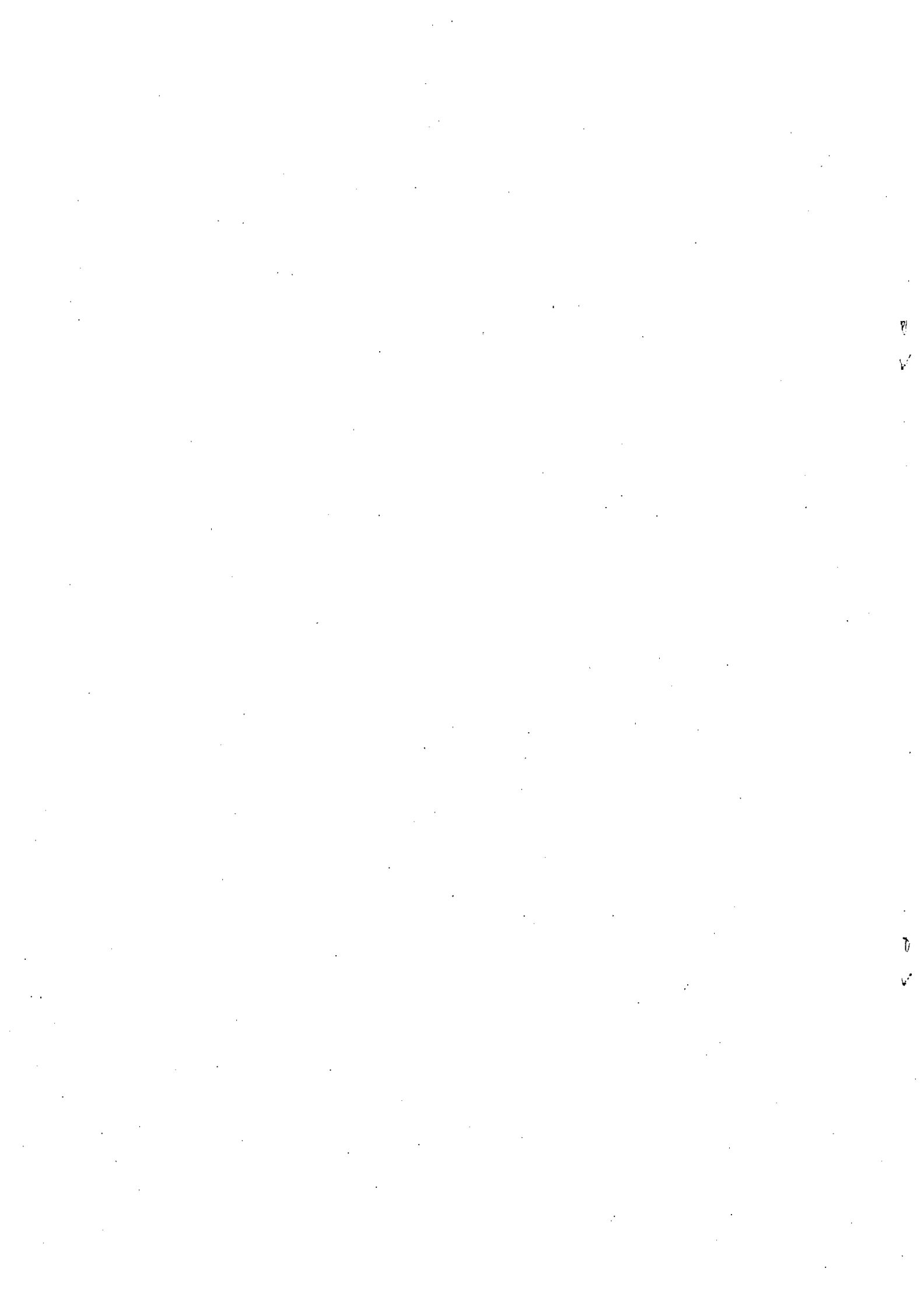


農林水産商工常任委員会提出資料

(平成30年2月26日)

項目	ページ
1 2月4日からの大雪による農作物の被害状況について 【とっとり農業戦略課、生産振興課】	1
2 鳥取県農業活力増進プランの改訂案について 【とっとり農業戦略課】	2

農 林 水 産 部



2月4日からの大雪による農作物の被害状況について

平成30年2月26日
とっとり農業戦略課
生産振興課

2月4日からの大雪により、下記のとおり農作物被害が発生しました。

記

1 農作物の被害状況（2月23日現在）

品目	被害規模	被害額	市町村	主な被害状況
白ねぎ	7.50ha	50,382千円	鳥取市、岩美町 八頭町、智頭町 米子市、境港市 大山町、南部町 伯耆町	葉折れ等による減収
ブロッコリー	調査中	調査中	大山町を中心に 被害あり	葉折れ、低温による花蕾 の変色・腐敗
玉ねぎ	0.25ha	800千円	米子市	葉折れによる減収
合計	7.75ha	51,182千円		

※1 ピニールハウスについては、2戸で被害報告あり

※2 水産関係については、米子市漁協所属の船外機船（小型エンジン付ボート）1隻が転覆

2 緊急対応

- 農作物の中では白ねぎやブロッコリーの被害が大きく、2月16日に予備費を発動し、雪害により通常の規格では販売できない農作物の販売活動経費を支援することにしました。

<平成29年度雪害農産物販売促進対策事業>

事業内容	事業主体	補助率	事業費	県費
通常の規格では販売できない白ねぎ、ブロッコリー等の野菜を雪害農産物としてJA等が行う販売促進の取組に対して助成 (ポスター・チラシ等の広報宣伝、パッケージ開発経費、交通費等)	農業者 農業法人 生産組織 農業協同組合 全国農業協同組合 連合会鳥取県本部等	1/2	千円 4,000	千円 2,000

鳥取県農業活力増進プランの改訂案について

平成30年2月26日
とっとり農業戦略課

鳥取県農業活力増進プランの改訂に向けた検討を行っていますが、県内農業団体や全市町村との意見交換を踏まえ、次のとおり改訂案の概要をまとめました。策定に向けてさらに検討を進めたいと考えています。

1 プラン改訂案の概要（別添資料参照）

(1) 名称 「鳥取県農業生産1千億円達成プラン」(名称変更)

(2) 趣旨

現行プランの達成状況や農業を巡る状況変化を踏まえ、本県の農業・農村を守り、農家個々の所得向上につなげるため、重点的に取り組む課題を整理する。

その上で、鳥取県農業の維持発展に向けて、その基盤となる農業産出額について、2028年(今から10年後)に1千億円を達成するという大目標に向かって、県下一円で取り組んでいく。

(現行プランは、本県農業の目指すべき姿と目標を明確にし、その実現に向けて重点的に取り組むべき対策の基本方針であり、各種農業施策の検討・推進を行う際の指針として平成27年3月策定。)

(3) 基本方針

現行プランの基本目標を変えることなく、10項目の重点分野に3項目(農業分野での働き方改革、TPP等国際情勢の変化への対応、防災・減災対策の強化)を追加し、それぞれ取組強化の内容を展開する。

〈プラン改訂案のポイント〉

I プランの基盤となる指標(農業産出額)の見直し

現行	700億円以上をキープ
修正後	<u>2028年(10年後)に1,000億円を目指す</u> (前段として2023年(5年後)に900億円を目指す)

II 重点分野の再整理

基本目標	重点分野
仲間が増える	①担い手の育成・確保、②農業分野での働き方改革の推進【新規】
所得が増える	③水田農業の収益性向上、④園芸産地の基盤強化、⑤収益性の高い畜産経営の実現、⑥TPP及び日EU・EPA等を踏まえた競争力強化と経営安定【新規】、⑦農林水産物・加工品の輸出拡大、⑧6次産業化・農商工連携の推進、新商品の開発、⑨食のみやこ鳥取ブランドの発信
地域農業が進む	⑩中山間地域など地域農業の推進、⑪農業生産基盤の次世代に向けた整備と保全、⑫農村地域の防災・減災対策の強化【新規】、⑬農とともに生きる鳥取県

III 数値目標の新設・上方修正を行う主な指標

【主な新設】

指標項目	目標値(2023年)	直近実績(2016年)
鳥取型低コストハウス導入面積	38ha	10.4ha
和子牛市場平均価格の全国順位	3位以内	12位
人・農地プランの反映集落数	400集落	152集落

【主な上方修正】

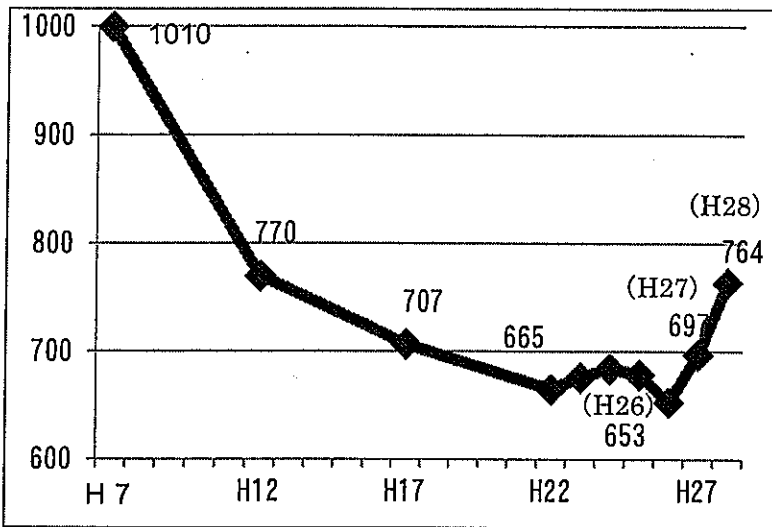
指標項目	現状の目標値	修正後の目標値	直近実績(2016年)
きぬむすめ作付面積	3,000ha	3,200ha	2,983ha
果樹新品種作付面積	200ha	230ha	184ha
有機・特裁農産物栽培面積	1,500ha	2,000ha	1,445ha

2 今後のスケジュール

今議会での議論や関係団体等の意見を十分踏まえ、本年3月末を目処に成案をまとめる。

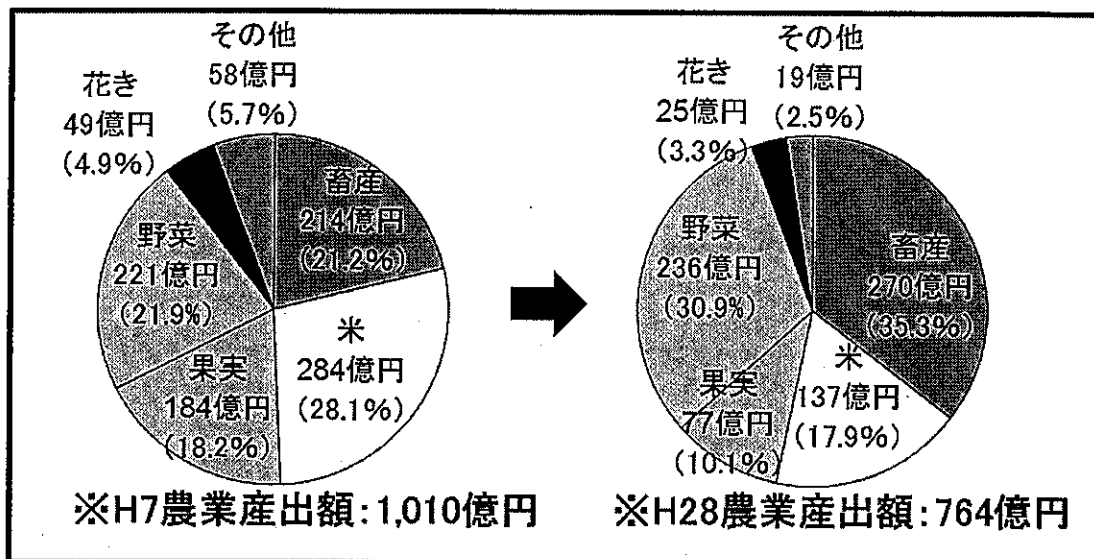
【参考】 主な関係指標の推移

【農業産出額の推移】



【直近(H28)の品目ごとの伸び率】

主な品目	伸び率	主な要因
全体 764億円	+9.6% (全国8位)	
米 137億円	+13.2% (全国12位)	主食用品種の価格上昇
野菜 236億円	+17.4% (全国10位)	低コストハウス導入棟数の増による園芸品目栽培面積の増
果実 77億円	+5.5% (全国23位)	梨「新甘泉」栽培面積の増
花き 25億円	+19.0% (全国3位)	芝、花壇苗、切り花の生産拡大
肉用牛 44億円	+29.4% (全国1位)	肉用牛ブランド化による県内子牛価格の高騰
生乳 64億円	+10.3% (全国2位)	緊急生乳増産奨励事業による増産



【参考】 プラン改訂に向けた主な意見

(1) 食のみやこ・やらいや農林水産業プロジェクト会議の主な意見(1月12日)

- 昨年は多くの品目で過去最高単価を記録。今後も果実や稲作農業法人の野菜導入等により販売額が伸びる要素あり。現実路線で金額を算定する考えもあるが、若者たちに夢を描く目標として農業産出額1,000億円が良いと思う。
- 水田転作による野菜導入や果実の生産販売の増加が見込める。みんなが目指していこうということで目標が高い方が良い。農業産出額1,000億円が良いのではないか。
- 大きな目標金額になるが、プランには畜産分野が位置付けられており、非常に勢いがある。

(2) 農協、全農とっとり及び市町村の主な意見

- 市場への有利販売につなげるため、主要品目ごとに県域の技術向上連絡会を設置し、品種構成の統一化、農家の収量・品質向上技術の底上げを目指す必要あり。今回の目標設定は、そのいい契機になるのではないか。
- 低コストハウスの普及により、施設園芸はまだまだ伸びる要素あり。
- 5年後を見据えた技術確立・機械開発を進め、10年後の生産量や単価アップにつなげる。
- 生産増に繋がる具体的な計画設定は5年後までが現実的。その先は産地ごとに全体の底上げを行う。

